

## 17世紀ペルー副王領における経済の多様化とリマ商人勢力の台頭：財政・財務状況の分析を含む

真鍋周三(兵庫県立大学)

キー・ワード： 太平洋沿岸部の交易、リマ商人、ペルー植民地の財政・財務状況、リマ財務府の収入と支出、財務官僚の官職販売

### La diversificación económica y el crecimiento del poder de mercaderes de Lima en el virreinato del Perú del siglo XVII

SHUZO MANABE (University of Hyogo)

Keywords: *comercio en la costa del Océano Pacífico de Sudamérica, mercaderes de Lima, circunstancias financieras en la colonia del Perú, ingresos y gastos en la Caja Real de Lima, venta de servicios del gobierno de cajas reales*

#### 1. はじめに

本報告は、アンドリーエンが行った緻密な調査研究を基に、ペルー植民地の社会的成層関係において最上層部の検討・考察を行う。17世紀南米太平洋沿岸部の政治・経済の中心都市としてのリマを舞台に、海岸部諸地域の生産や商業の実態、海外との交易にも焦点をあて、ペルー副王領における経済の多様化とリマ商人勢力の台頭を考察する。そして引き続いて副王領の財政・財務状況を明らかにする。

上記の作業を経て、水銀をメキシコならびにポトシに運んでいた主体、海外からポトシにもたらされた物資のうち、太平洋沿岸部経由で輸入された舶来品(大半が奢侈品)をポトシ市場に届けた主体、そしてその対価としてポトシ銀を太平洋岸・中米地峡経由でスペインなりメキシコ(アカプルコ)方面に送り出した主体、太平洋沿岸部地域産の品々、例えばキト産のラシャや砂糖などをポトシに運んだ主体が、リマ商人であったことを明らかにしたい。

#### 2. ペルー副王領における経済の多様化と太平洋沿岸部

ペルー副王領における各都市の成長と市場経済下での植民地人の積極的な活動は、地方の生産、消費需要の高まりを生んだ。大西洋交易の後退に起因する舶来品不足や一部の商品の物価高騰は、地方における投資を事業家に煽った。太平

洋沿岸部における生産や商業が繁栄することになる。密貿易従事者は跡を絶たなかった。スペインはペルー植民地(副王領)に対して新税課税、税率のいっそうの増加を期待・要求した。しかしペルー植民地のエリートは重税に反対した。本章では、太平洋沿岸部の交易をめぐる留意点として、フィリピンとヌエバ・エスパーニャ(メキシコ)間の、またリマを中心とする太平洋沿岸部の交易状況を検討した。

#### 3. リマを中心とする沿岸部地域の交易とリマ商人

最初に「リマ管区」の地理的位置を確認し、続いて、「ペルー副王領の首都リマ」が副王領統治の政治上の中心であること、リマの人口や人口構成について述べ、リマの外港カヤオに言及した。イギリス、オランダの海賊船の出没に際し、歴代のペルー副王がカヤオの要塞化・守備に尽力してきた。1579年から艦艇を編成・配置し、1640年には町に城壁を築いて敵の攻撃に立ち向かった。「経済中枢としてのリマ」では、リマが南米植民地の商業・経済の中心拠点であり一大消費市場でもあった点を述べた。リマの弱点として地震など自然災害の影響を指摘した。「リマ商人の動向」では、1613年におけるリマ商人ギルド(コンスラード)の設立、実態を述べた。リマ商人が力を得るうえでよく利用したのが有力家系との縁組みであったこと、「ペルレロ」と呼

ばれたリマ商人の行動様式・活動範囲を確認した。17世紀太平洋沿岸部における主な交易品の流れをまとめて提示した。

#### 4. ペルー植民地の財政・財務状況とリマ商人

「収支決算書、税種、徴税」では、リマ財務府の収入の内訳として①地元のリマ管区で集められた税収入と、②ペルー副王領内にある16か所の地方財務府からの(余剰)税収入の額を示した。リマ財務府はこの収入を副王領行政のさまざまな部署の経費にあて、残りをスペインに送った。財務府官僚の仕事について述べた後、リマ財務府で記録された税をいくつかのカテゴリーに分けて説明した。新税の例として①のうちユニオン・デ・アルマス(防衛税)に言及したほか、リマのカビルドやコンスラードが税徴収を請け負うといった方式が常態化した点を確認した。税種:アルカバラ(販売税)、アルモハリファスゴ(関税)、防衛税、アベリア(護衛船料)や新税:防衛税、メディア・アナタ(官僚と聖職者に課せられた「年収の半分」に相当する所得税)、文書税等を検討した。

②に関して地方別に大きい順から示すと、第1位がポトシ、第2位がオルロ、第3位がクスコ、第4位がカイリョマ、第5位がチュクイートであったこと、銀産地を抱える地域からの送金額が大きかった点を確認した。

「財務官僚の官職販売の影響」では、1633年に財務官僚の官職販売が始まって以降、リマ財務官僚にリマ商人が就任するケースが増えた状況を、事例を示して検討した。また財務官僚が「負債」を蓄積するなどの問題点を指摘した。

「リマ財務府の支出」では、太平洋沿岸における英蘭の海賊の襲撃にふれ、ペルー副王領の防衛費の増大を背景にスペインへの送金額が削減されていった状況を指摘した。

#### 5. おわりに

海運業に従事したリマ商人はヨーロッパやアジアなどからの舶来品、銀や水銀をはじめとして、太平洋沿岸部産のキト産のラシヤ、小麦、ぶどう酒、砂糖などの販売を通じて富を蓄え、リマ

においてカビルドはもとより副王庁、財務府、会計審査会などの要職を占め、コンスラードを結成して商人間の結束を固めた。ペルー副王領の政治・経済・社会に影響を与えたほか、海外でも知られる存在となった。ポトシの銀ビジネスやワンカベリカの水銀ビジネスを支え、主体となって牛耳ったのはリマ商人であった。経済基盤を確固たるものにし、ペルー副王領の経済界を牽引するに至った。南米太平洋沿岸部一帯はもとより海外とくに東アジア、中米地峡、ヌエバ・エスパーニャ(メキシコ)、スペイン本国にもリマ商人の影響は及んだ。リマ商人は1633年から始まった財務官僚の売官制を通じて、リマ財務官僚の役職を掌中に収めていく。副王をはじめアウディエンシア閣僚といった植民地指導者との紐帯を築き政界にも進出する。

地方財務府を束ねるリマ中央財務府の税収入とその支出を検討すると、ペルー植民地の財務状況が明らかになった。ペルー植民地からスペインへの送金額は、17世紀末の1681-90年には支出額全体の僅か5%にまで落ちた。これとは反対に同時期において支出額全体の43%が防衛費に割かれていた。本国スペインは、ペルー植民地からの「送金額」の増額を要請したけれども、実現には至らなかった。ペルー植民地の防衛費を削減するならば、ペルーからの富の多くを他国に奪われることになり、その意味で防衛費の削減はスペイン国家財政の根幹を揺るがしかねない事態を招く怖れがあった。王権にとって太平洋沿岸交易の破綻だけは避けなければならなかったはずである。

#### 【主要参考文献】

- Andrien, Kenneth J., 1985, *Crisis and Decline: The Viceroyalty of Peru in the Seventeenth Century*, University of New Mexico Press, Albuquerque.
- Jiménez, Ismael Jiménez, 2016, *Economía y urgencia fiscal: los asientos hacendísticos del Consulado de Lima en la segunda mitad del siglo XVII. Histórica*, XL. 1, pp.35-63.